

ガラス細工→高分子、育児→化学教育



渥美みはる

東京女子大学現代教養学部
[167-8585] 東京都杉並区善福寺2-6-1
助手、農学博士。
専門は高分子化学、化学教育。
atsumi@lab.twcu.ac.jp

高校2年の文化祭で化学部のガラス細工体験に参加してから、すっかりガラス細工に魅了されました。ガラス細工がやりたくて、大学は化学系の学部、学科を目指すことにしました。大学で高分子の面白さを知り、研究者に憧れるようになりました。大学院にも進学して学位を取得したものの、就職が決まりませんでした。その2カ月後に運良くポスドクとしてアメリカに行くことになりました。その頃は結婚や子育てとは無縁の生活を送っていました。アメリカで10年以上ポスドクをされている女性研究者と出会いました。その方は高校の教師をされている方と結婚されてお子様もいらっしゃいました。その大学には空きのポストがなく、パーマネントポジションにつくためには家族と別居しなければならなかったそうです。その方はとても魅力的で輝いていて、その生き方に共感するものを感じました。いつか結婚したい、子供が欲しいと思うようになりました。

帰国後も職に就くことができませんでしたが、幸いなことに翌年に学振の研究員に採択され、さらにその1年後には東京女子大学に助手として就職することができました。溶液物性の研究室でしたが、真空ラインを使って測定用の試料を合成する人が必要とのことで、採用になりました。ガラス細工好きが幸いしました。研究室は一般教養の所属で、おもに文系の学生を対象にした学生実験を担当することになりました。高校で化学をほとんど学んでこなかった学生もいて、誰にでもわかるように説明することの難しさを実感しました。

東京女子大学では、多くの方が子育てと仕事を両立させていて、子育てに適した環境だと感じました。育児休業の取得率が高く、2011年度に「杉並区子育て優良事業者表彰」で最優良賞を受賞しています。念願がかなって子供が生まれたときは育児休業を年度末まで取得しました。多くの女性研究者が出産後に最短で復帰していたので不安はありましたが、スランプに陥っていたこともあり、気持ちをリセットするために決心しました。大学では子育ての先輩からさまざまなアドバイスを受けることができました。たとえば、保育園

は大学の近くがいいとか、大学の近くに引っ越したほうがいいなど。幸いなことに大学から徒歩3分ほどの保育園に子供を預けることができました。

復帰してからも研究のほうはなかなかうまくいきませんでした。数年後に高分子の教科書の執筆に参加しないかというお誘いがありました。大学の先輩が、多くの教科書を執筆されている先生から「高分子を専門としている女性を紹介してほしい」と言われたのが、そのきっかけでした。イラストを豊富に入れた楽しい本にすると聞き、イラストを描く人を探しているのだという、とんでもない勘違いをしまい、喜んで引き受けました。学生の頃、漫画をよく描いていて、そのために声がかかったと思ったからでしたが、実際には本文を担当するとのこと。子供がまだ小さくて執筆時間が確保できるかどうか心配でしたが、締め切りまでかなり時間があつたことと、文系の学生に実験指導した経験を活かすことができると思ったことから、そのまま引き受けることにしました。子供をできるだけ早い時間に寝かしつけることによって、執筆の時間を確保しました。子供にとっても早寝、早起きの習慣がついてよかったです。

その後、大学の改組に関連して、仕事場にしていた実験室がパソコン室に改装され、高分子を研究する研究室もなくなり、すっかり落ち込んでいました。この機会に計算機化学を取り入れた研究テーマに取り組もうと試みましたが、世の中の進歩についていけず、すっかり落ちこぼれてしまいました。仕事を辞めたいと思ふこともありましたが、そのようなときに演習書執筆の機会が訪れ、原稿が完成するまでは仕事を続けることにしました。子供が成長して、原稿をのぞきこんだり、高分子の教科書を音読したりしていました。高分子の本を楽しそうに見ている我が子を見て、どうして理科嫌いの子供が多いのだろうと疑問に感じました。これをきっかけに、化学教育に興味をもつようになりました。今後は、化学の面白さを伝えられるような仕事をしていきたいと思っています。